

第1回 多治見市第7次総合計画審議会 会議録	
日時	令和元(2019)年9月26日(木)9時00分～10時45分
会場	多治見市役所 本庁舎5階 全員協議会室
出席委員	市原好二委員(会長)、古池嘉和委員(副会長)、中澤香代委員、樋口昭二委員、小木曾利之委員、竹内幸太郎委員、浅野みな子委員、加藤孝春委員、蒲悦子委員、原美奈委員、今枝寛彦委員、植野利康委員、尾崎浩之委員、野々村敦委員 (委員16名中14名出席)
欠席委員	柴田錦見委員、伊藤静香委員
事務局	多治見市長、鈴木企画部長、伊藤企画防災課長、小木曾課長代理、武井総括主査、水野総括主査、後藤総括主査、前原主査、土本主査
傍聴人	1名
会議録要旨	
1	開会
2	<p>市長あいさつ</p> <p>市長 これから4年間の多治見のまちづくりの基本の方向性をしっかりと定める。これが総合計画である。</p> <p>本市の総合計画は完全なボトムアップ方式でみんなの声を聞いていく。中学生や高校生の声もしっかり聞いていく。</p> <p>総合計画で定めたことはすべて実行実現をしていく。実行実現するにはお金が必要だが、計画に定めたがお金がないからできない、というような計画は作らない。</p> <p>大局的な話もしっかりしていただき、意見を伺いたい。</p>
3	委嘱状交付
4	<p>会長の互選について</p> <p>事務局 会長の候補者について、事務局から指名推薦としたいがいかがか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>事務局 候補者として、会長には、多治見商工会議所副会頭で東濃信用金庫理事長の市原好二委員にお願いしたい。</p> <p>《拍手:承認》</p> <p>会長 この総合計画審議会は、多治見市の今後の4年間のまちづくりを考える基本的なも</p>

のである。

私は、商工会議所と地元の金融機関の立場であるが、この多治見を元気なまちにして住みよいまちにするというのはみんなの共通の目的である。そういう意味で、これからの 4 年間、それからさらにはその先を考える上での大事な審議会だと考えている。

書いたものを実行する、お金もつける、そういうものしか逆に書かないということなので、委員各位それぞれの立場で、意見をいただきたい。

5 諮問 諮問内容を市長が朗読し、市原会長へ諮問書を手渡す。

6 職務代理者の互選について

会長 多治見市総合計画審議会条例第 5 条第 3 項に基づき、職務代理者に古池嘉和委員を指名する。

7 議題（1）：第 7 次総合計画（後期計画）の策定について （①、②）

事務局 追加資料 2 に基づき、①総合計画について、②市民参加の経過について説明（パワーポイント使用）

8 議題（2）：審議（質疑応答 ①、②）

会長 各委員の発言求める

委員 この総合計画は 8 年間の計画の後期ということだが、この 8 年を前期と後期で分けるというのは、どういう趣旨なのか。後期であるということ、前期計画を踏襲することだが、前期計画の流れをある程度意識しながらやっていくことになるのか。

事務局 市長がマニフェストを掲げ選挙をし、その政策を市民が信託をして市長が選ばれることから、政策を総合計画に反映させている。また、社会ニーズ等の変化も踏まえて見直しを行う必要もあることから、計画期間の中間年で見直しを行っている。

計画自体が 8 年間の計画なので前期の計画を踏襲し、後期について、必要がある部分についての見直しをしていく。

7 議題（1）：第 7 次総合計画（後期計画）の策定について （③）

事務局 追加資料2に基づき、③第7次総合計画（後期計画）基本構想（案）、基本計画（案）について説明  
（パワーポイント使用）

## 8 議題（2）：審議（質疑応答 ③）

会長 各委員の発言を求める。

委員 Society4.0とSociety5.0の違いは何か。

事務局 Society5.0という言葉は国が進めているもので、Society1.0が狩猟社会、Society2.0が農耕社会、Society3.0が産業社会、Society4.0が情報社会で、現在をSociety4.0としている。

Society5.0は多種多様な情報を、人工知能やインターネットなどを使って活用し、人間中心の社会を築いていこうとするもの。時間や距離といったような概念を少しずつなくしながら、どこに住んでも同じようなサービスが受けられる社会を目指している。

委員 先ほど計画期間の話があり、基本的に前期を踏襲するということがあったが、市民の皆さんから意見を聞き、前期計画はこれでいいという評価をいただいている。不足感があるものについては、新規、あるいは拡充するということで進めているのか。

事務局 そのとおりである。討議課題集には前期期間で行ったこと、また後期に向けての課題を記載している。市民から意見を聞き、課題の取りまとめを行い、それらの課題を解決するよう後期計画の見直しを行っている。

委員 前期と違うところ、見直したところで1番中心になるのは新規とか拡充という部分になるということか。また、完了というものは、事業が終わった、あるいはスクラップするという意味か。

事務局 前者についてはそのとおりである。

また、完了事業については、討議課題集の107ページに完了した事業を一覧として掲載している。例えば1番上「公私立幼稚園の利用料格差を是正するため、私立幼稚園への就園奨励事業を充実させます」という事業については、消費税の増税に伴い、幼保の無償化事業が始まるため前期期間中で完了としている。その次の「愛児幼稚園、精華小学校附属幼稚園を統合して整備します」という事業についても昨年度、統合幼稚園が供用開始されているため完了としている。完了事業というのは前期期間中に事業が終わったということで御理解をいただきたい。

委員 先ほど市民参加の経過などの説明があったが、市民の意見を聞く前には、たたき台があつてということだと思ふ。それが市民参加などを経て、何がどのように変わった

のかというところを教えてください。

市民の皆さんに意見を聞いたが、今回、すべて一緒になって案として出されているので、もともとの事務局案で進んでいるのかよくわからない。拡充案や新規案も多いが、経緯をわかりやすく教えていただけると、意見を言う参考になるのではないかと。

委員 先ほどの説明の中で、できることはやるしできないことはやらない、財政も厳しい状況になっているということであった。後期計画では、拡充も新規もかなり多いようである。ある程度財政的な裏づけも含めて、担保できるということか。

事務局 策定全般を市民委員会と、市の職員からなるワーキンググループの両方で協働しながら積み上げて案を作り、市の内部や議会での議論を踏まえて提案をさせていただいている。

市民委員会では、基本構想、基本計画について意見をいただき、細部にわたる修正をしている。

基本計画事業について、市民委員会から意見をいただき、加わった事業の一つには、「防犯カメラの設置の検討」がある。

全ての事業を総合計画にかかわる事業、総合計画に関わらない事業、人件費や起債の償還のような固定的な経費も全て踏まえて財政推計をしている。

歳出の計画額の算出し、それに伴う歳入の推計をしながら、全てが予測額の上限と下限の中に入るように事業を選択し、予算を担保している。

委員 そのグラフの歳出計画額というのは、その範囲内におさまっているということではないのか

事務局 枠内におさめて実効性を担保しているところである。

委員 討議課題集の後半の市民参加のページをみると、市民からの意見がどのように反映されているか分かるのではないかと。

事務局 討議課題集は、前期の事業計画を実行した結果、どのような課題が残っているかも含めて市民からご意見をいただきまとめた。また、それらの課題を解決するために、どういった事業をしていくか、場合によってはその事業を拡充する、また新規事業を追加するというのを、市民、職員、議会と協働で進めてきたものである。

委員 2点お願いがある。

一つはSDGsの理念を自治体としてどう受けとめていくか。多治見市は、それを「共につくる」という言葉で表現しており、これは非常にいいことだ。多様な主体がこれから先、さらに多様化するため、国籍もそうだが性別もボーダレス化するので、覚悟をもって具体的にどう示されるのか考えていかれるといいのではないかと。

もう一つはSociety5.0だが、例えば「Society5.0の視点から、職員の生産性向上を図ります」と言われてもよくわからない。「共につくる」ということであれば、その前提はわかりやすく伝えるということなので、「時間をつくって皆さんとお話する機会をふやします」で十分わかりやすいと思う。同じ表現であれば、できるだけ横文字も使わないほうがいいのではないかと。

委員 振り返りと次の目標に対して数値的なことの説明がなかったのではないかと。拡充するにしろ新規にするにしろ、前期の施策をやってきて、目標値があり、

それに対する達成率とかがあって、足りないのであれば課題が抽出されて、それを拡充していくとか、思ったよりも早く終わったので新しい事業やっていく、というような考え方がある。

今回の施策をつくるにあたって数値目標というのは、市役所の中で確認された上でという理解でいいのか、あくまでも市民の方からのアンケートの中で、イメージ的に、できているのかできていないのかという判断なのかというところの考え方だけ教えていただきたい。

事務局 事業の評価については、討議課題集の15ページ以降に、施策ごとに指標を設けて、その指標のアウトカムの数値を基準に評価をしている。しかし、直接的に拡充事業や新規事業に結びついているとまでは言えない。

市では2年に一度、市民の満足度調査を実施したり、総合計画を策定する前段階に、市民の皆さんから課題をいただいたりする中でそれらを総合的に勘案して新規の事業の立ち上げや事業を拡充する方向を決定してきた。

委員 この総合計画の策定にあたって、市民の意見とかパブリックコメントを通していろいろな意見を聞いて進めてきたことはすごくいいことだと思う。市民が、日ごろあまり関心がないことでも、長期的な視野に立ってきっちりやっていくこともあるかと思うが、そういった内容も、ある程度踏まえて計画づくりをしているということか。

事務局 いろいろな立場の方がいらっしゃるの、広く意見を聞くパブリックコメント、市長が各小学校区を回って意見を聞く地区懇談会、いろいろな団体や子どもたちの意見を聞く、無作為抽出の市民へのアンケートを定期的にとる等を実施している。

しかし、中長期の視点で御意見をいただくことはなかなか難しいと思っている。団体等であれば、その分野の課題感もたくさん持っていらっしゃるの、そういった声をできるだけ多く拾って、政策に反映していくということで進めてきた。

また、後期計画でも指標を設けて定期的に確認しながら進めていきたいと考えている。

## 8 その他

事務局 今後の日程は、  
第2回 10月4日 PM1:30～PM3:30 市役所本庁舎5階全員協議会室  
第3回 10月17日 PM1:30～PM3:30 市役所本庁舎5階全員協議会室  
答申 10月30日 PM4:00～4:30 市長応接室  
で開催する。  
答申については、会長副会長に出席いただくが、よろしければご同席いただきたい。

<会議終了>